

## 令和6年度 第2回燕市社会教育委員の会議 会議録(要旨)

日 時 令和7年3月26日(水) 午前10時00分～11時30分

開催場所 燕市中央公民館 3階 中ホール

出席委員 伊皆 桂子 委員、加藤 一夫 委員、神保 一江 委員  
高桑 紀美江 委員、田中 未来 委員、古川 真哉 委員

欠席委員 須玉 研一 委員、寺澤 清仁 委員、柳原 康浩 委員

事務局 教育長 小林 靖直、教育次長 岡部 清美  
社会教育課長 石黒 昭彦、課長補佐 古澤 百合子  
生涯学習推進係長 石村 由紀、主任 高口 弥美

傍聴人 なし

報道機関 なし

会議に付議した事件

### 報告

- (1) 中越地区社会教育委員連絡協議会第2回代議員会について
- (2) 令和6年度燕市社会教育委員活動報告(中間報告)について
- (3) 指定管理者の指定について(燕市小中川公民館)
- (4) 分水公民館および松長公民館の改修について
- (5) 西燕公民館の閉館について

### 協議

- (1) 令和7年度燕市社会教育委員活動計画(案)について

[以下、会議録（要旨）]

## 報告

- (1) 中越地区社会教育委員連絡協議会第2回代議員会について  
《事務局説明》  
(委員からの質問なし)
- (2) 令和6年度燕市社会教育委員活動報告（中間報告）について  
《事務局説明》  
(委員からの質問なし)
- (3) 指定管理者の指定について（燕市小中川公民館）  
《事務局説明》  
(委員からの質問なし)
- (4) 分水公民館および松長公民館の改修について  
《事務局説明》

### ○委員（高桑委員長）

分水図書館は改修で大きくならないのか。

### ○事務局

分水図書館については、構造上、部屋を広くすることは難しい。しかしながら、現在閲覧スペースと兼ねている学習スペースを、独立して設置する予定である。

### ○委員（高桑委員長）

吉田地区は燕市民交流センターに、燕地区も図書館に学習室があるが、分水地区にはこれまで学習室がなかった。図書館の大きさは変わらないが、生徒たちにとっては環境が良くなるということで理解した。

### ○委員（高桑委員長）

松長公民館が約半年間休館するが、その間の講座や公民館活動はどうするのか。

### ○事務局

定期利用団体は旧松長小学校を活用して活動すると伺っている。また、公民館講座などについても旧松長小学校で開催する予定。

- (5) 西燕公民館の閉館について  
《事務局説明》

○委員（伊皆委員）

公民館の閉館に際し、今後の社会教育サービスや行政サービスはどうするのか。分水公民館は改修するようだが、なぜ西燕公民館は改修しないのか。

公共施設の保有量適正化計画が出されており、理解はできるが、西燕公民館がある地区の人口は少なくない。借地の解消が目的となってしまうと感じる。所在地は別として、地区に公民館を確保すべきではないか。

○事務局（古澤補佐）

平成 31 年に燕市建物系公共施設保有量適正化計画が策定され、その中に、公民館は小学校区に一つということで定められている。燕西小学校区については西燕公民館と中央公民館がある。

西燕公民館は借地の課題があり、施設の老朽化や地盤沈下により維持管理費の負担も大きい施設でもあるため、早い時期に、他の既存公共施設へ移転を検討するとされている。

今後の対応については、定期利用団体には、活動場所の調整を丁寧に行いたいと考えており、公民館講座についても、必要に応じてサークル化を支援する。

併せて、施設の指定管理者でもあるまちづくり協議会について、移転先で円滑に事業が実施できるよう支援を行っていきたいと考えている。

○委員（伊皆委員）

西燕公民館は指定避難所になっているが、周辺には二階建て以上の公共施設がない。指定避難所は保育園しかなく、1 階建てであり、水害時には避難できない。他の避難所は非常に遠い。

現在、防災訓練での避難先は西燕公民館となっており、今後はどこへ行けばいいのか。そういったことについて防災課とは協議しているのか。

○事務局

避難所を管轄しているのは防災課となるが、基本的に公共施設の中から適した施設を避難所に指定している。

西燕地区においては、西燕公民館、西燕保育園の 2 施設を指定避難所、西燕児童館を予備避難所としている。その他には適した施設がないため、新たに避難所を設けることは難しい状況となっている。

公民館がなくなると、指定避難所まで多少離れてしまうが、ご理解いただきたい。

また、洪水の場合、西燕地区に到達するまでの時間は、数時間かかると予測されているため、避難までの時間は確保できると考えている。

避難については、必ずしも市の指定避難所に避難する必要はなく、場合によっては自治会所有施設なども適切に御活用いただき、有事の際の安全を確保していただければと考えている。

しかしながら、このような貴重な御意見いただいたことについては、防災課にも伝える。

- 委員（高桑委員長）  
避難訓練の見直しもあるため、防災課や自治会を含めて検討していただきたい。
- 委員（高桑委員長）  
現在公民館に入っているまちづくり協議会の事務局や活動拠点はどうなるのか。
- 事務局  
燕庁舎を候補として検討している。

## 協議

- (1) 令和7年度燕市社会教育委員活動計画（案）について  
《事務局説明》

- 委員（高桑委員長）  
自主研修会として、初心者のためのスマホ相談室を、6月25日、7月23日、どちらも13時30分から15時ということで予定している。  
また、令和7年度の活動費の用途についてご意見があったら伺いたい。
- 委員（田中委員）  
50人から60人規模の、市民を巻き込んだ講演会ができればよい。
- 委員（高桑委員長）  
自主研修会に出席できない委員もおられるため、月1回の自主研修会で開催案を作成し、7月の会議で提案させていただきたいと考えている。
- 委員（古川委員）  
市民に還元できるような活動ができればよいと思う。

## 意見交換

- 委員（田中委員）  
大人の読書指導として、図書館でビブリオバトル（本の紹介・ディスカッション・投票を行うゲーム）の会をつくってはどうか。図書館に提案したい。読書サークルの実績にもなる。  
ジャンルは違うがオープンマイク（誰でも飛び入りでマイクを使い、音楽やパフォーマンスを披露できる場）のようなことが本の世界で出来たらよい。
- 委員（加藤委員）  
私が課題と考えているのは「後継者不足」である。自治会でも非常に大変だが、農業、商業の分野、クラブ活動などでも後継者がいない。若い人がおらず、子どもも減ってきている。社会教育委員も人数が足りていない。

○委員（高桑委員長）

後継者については、大きなサークルなどでも大変だという話を聞く。

後継者に限らず、人を育てていくには、やはり教育である。社会教育、公民館活動の中で、色々なことを学んでいくということが必要であり、社会教育が大事になってくるのだと思う。

○委員（古川委員）

今年度、学校運営協議会がスタートした。地域の皆様と一緒に、学校を盛り上げながら子どもたちを育てていく活動と認識している。

子どもたちに必要な力は、教室の中だけでは見つけさせることは難しいと思っており、人との関わりの力には、学校や先生以外の、大人との繋がりが大事な要素となる。

そのため、今後は学校の中での勉強だけではなく、地域の皆さんを巻き込んだ学びの場を作り上げていきたい。

子どもたちが地域の願いや思いを引き継ぐことが、先ほど話があった後継者不足の解消などにも繋がっていくのではないかと考えている。

○委員（神保委員）

図書館に司書は何人いるのか。図書館で質問しても、なかなか解決しないことがあった。

○事務局

図書館司書は14名となっている。

○委員（神保委員）

いろいろ調べている中で、3歳児の自宅での不読率、小学生の不読率も燕市はとても高いということが気になった。子どもへの支援を手厚くしつつ、大人の読書にも繋がっていくようなことが出来たらよい。

○委員（神保委員）

「らんらんランチ会」の取組が文部科学省のホームページに掲載されることになり、また、新潟県の研修会でも事例発表の依頼があった。どちらも、市との共催で社会教育委員と一緒にやっているということが評価されたもの。

社会教育委員の皆さんにも協力をいただきながら今後も活動を続けていきたい。

○委員（伊皆委員）

欠席委員から質問を預かっている。現在、子どもたちはタブレットを家庭に持ち帰っているが、家庭環境にその影響はないか。また、家庭によっては、Wi-Fiが繋がっていないなど、家庭環境による格差もあるのではないか。

そういった課題について学校は把握しているのか。

○委員（高桑委員長）

小中学校のタブレットの状況、また、利用方法などをお聞きしたい。

○委員（古川委員）

燕市の方針としては全員が家に持ち帰って活用しようということで指導している。当初はWi-Fi ルーターの貸出等も実施していたが、現在ではW-Fi を使えない家庭はほぼないと感じている。

ただし、家庭で何をさせるか、タブレットを活用することについては、今後も推進していかなければいけないと思っている。授業での活用も高まってはいるが、まだまだ研究を続けていかなければいけない。

一方で、少数ではあるが、自分のスマホやゲーム機などで、ゲーム依存になってしまっているような子どもも中にはいる。

SNS やメディア、ゲームとの付き合い方を、自分でコントロールできるような力をつける取組も行っているが、まだ十分ではなく、大きな課題だと思っている。

○委員（高桑委員）

新聞によると、10 歳以上の小学生のインターネット使用時間は、1 日あたり平成 24 年度で 3 時間 46 分。5 年前から 1.5 時間増、中学生は約 5 時間 2 分、2 時間以上増えたとのこと。

その記事では、子どもたち自らが納得して、守ることができるルールづくりを、学校でも家庭でも促して欲しいと結んであるが、すごく大きな問題だと思っている。

読書の問題とも繋がっているが、本を読むよりも刺激が強いインターネットに流れてしまっている。家庭とも連携し考えていくことが出来ないかと思う。

○委員（高桑委員）

大人の学びについて、公民館の講座などで学習する内容がなかなか進展しない。現代的な課題も多い中で、人口減少社会にどう立ち向かっていくかなど、そういうことを学習する機会がない。差し迫った課題に社会教育が答えていないと感じている。

公民館が問題を提起していく努力をするべきである。全国の他の公民館の活動などを参考に、市職員自身がアンテナを張って、情報をキャッチしてほしい。

午前 11 時 30 分閉会